

第 2 回千葉市新基本計画審議会における意見への対応の方向性

No.	分類	章	項	目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	委員	対応の方向性	原案の修正案（たたき台）	総論の修正有無
1	第1回意見	第3章	2	(2)	34	③ 3 ポツ目	・職住近接の暮らしや日常的に触れ合える豊かな自然などの特性を有する本市は、感染拡大防止と社会・経済活動の両立という社会課題に対応する上で高い優位性を持つと考えられ、これらの特性やテクノロジーを活用しながら新しいまちづくりを推進することが必要です。	原案の中では、千葉市の県内における位置付けが明確に書かれているが、他の首都圏の傾向を見ると、首都圏の中での位置付けといった視点で書かれている。一方、千葉市の場合は首都圏の中での位置付けが明確でないため、千葉市をどう位置づけるのかが必要ではないか。人口が減少していくかもしれないが、コロナ禍の中で千葉市へ転入してくる方がいるため、一つのチャンスになると思う。現状は、さいたま市や横浜市の経済規模や人口規模で差が開いているが、首都圏の中での千葉市といった視点を盛り込んだ方がよいのではないか。	松永委員	ご意見のとおり、県内における本市の位置づけ同様に、より広い視点で、首都圏における千葉市の立場を明確にすることは重要ですので、記述を検討します。	【P34 第3章 2 (2) ③ 3ポツ】 ・ <u>コロナ禍における東京都との人口移動を見ると、これまで一貫して転出超過であった傾向に変化が生じており、職住近接の暮らしや日常的に触れ合える豊かな自然などの特性を有する本市は、感染拡大防止と社会・経済活動の両立という社会課題に対応する上で高い優位性を持つと考えられます。</u> ・ <u>これらの特性や優位性を活かすとともに、テクノロジーも活用しながら、感染症リスクに対応した新たなライフスタイルを支えるまちづくりを推進することが必要です。</u>	あり
2	当日意見	第4章	-	-	-	全体	-	戦略的視点から都市構造への繋がり、関連性が分かりづらい。	渡部委員	計画を多様な主体で共有し、真にまちづくりを進める指針とするには、誰もが読んで理解できるものとする必要があると考えますので、各章の繋がりや関連性について改めて見直し、向上を図ります。	検討中	あり
3	当日意見	第4章	-	-	-	全体	-	千葉市に関わるみなさんが読むものという視点に立つと、言葉の使い方や繋がりなど、分かりにくい部分があると感じる。都市構造や各区の特徴に、戦略的視点のどこに繋がって紐づいていくのか説明があると、千葉市の強みが何か明確になると思う。	梅澤委員	計画を多様な主体で共有し、真にまちづくりを進める指針とするには、誰もが読んで理解できるものとする必要があると考えますので、各章の繋がりや関連性について改めて見直し、向上を図ります。	検討中	あり
4	当日意見	第4章	1	-	40	全体	-	「みんながめざす未来の千葉市」について、みんなが輝くためには成長や学びが重要であると考えます。稲毛区だけでなく、千葉市全体が文教都市であると感じており、子どもだけでなく、大人も学んで成長できる環境があるからみんなが輝けるんだということを強調して欲しい。	市田委員	ご意見のとおり、市民みんなが自分らしく活躍するためには、日常の学びの中で個人の価値を高め、成長していくことが重要と考えますので、記述を検討します。	【P14 第2章 3 (2) 2パラ】 こうしたことを背景に整えられた生活・教育・文化・スポーツ等の機能や「場」の集積は、市外に出ることなく、充実した様々な消費生活や余暇時間をもたらす。職住近接の豊かな暮らしの実現を可能としています。 【P40 第4章 1 4ポツ】 ・また、本市に住まい、活動する人々が、 <u>生涯を通じて学び、成長を続けることで、一人ひとりの個性を活かし自分らしく活躍できるとともに、多様な主体がつながり連携しあうことで、未来に向けて輝き続けるまち</u> です。	あり
5	事前意見	第4章	1	-	40	全体	-	「みんなが輝く 都市と自然が織りなす・ちばし」を計画の冒頭で記載することで、読み手に優先順位が高い言葉として意識付けをしてはどうか。 例) 第1章 はじめに この「千葉市基本計画」(以下本計画)という。)は「みんなが輝く 都市と自然が織りなす・ちばし」をコンセプトに、10年、20年後の～・・・」 また、「ちばし」と平仮名では幼稚な印象を受けるため、理由を記載すべきではないか。 【意見の理由】 現状の記述では、「みんなが輝く 都市と自然が織りなす・ちばし」が散漫な印象を受け、記憶に残らない。また、「ちばし」の表記について、世界とつながる多様性、インクルーシブの視点では、ひらがなよりも「CHIBA」の方がふさわしいのではないか。 なお、第4章3 目指すべき都市構造に掲げる都市構造の将来像「千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク～下総台地の緑風、東京湾の浜辺、人々が行き交う“ちば”に住まう～」でも同様の意見である。	若狭委員	ご意見を踏まえ、「みんなが目指す未来の千葉市」のイメージが市民の印象に残り、共有できるワードとなるよう、冒頭の市長メッセージに記載することを含めて検討してまいります。 「ちばし」の表記は、行政としての「千葉市」が目指す姿ではなく、市民をはじめとする多様な主体と共有し、ともに目指す姿を示したいとの考えから、やわらかさ、親しみやすさを持ってもらえるひらがな表記としています。	-	無

第2回千葉市新基本計画審議会における意見への対応の方向性

No.	分類	章	項目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	委員	対応の方向性	原案の修正案（たたき台）	総論の修正有無
6	事前意見	第4章	1	—	40	標語 「みんなが輝く 都市と自然が織りなす・ <u>ちばし</u> 」	「ちばし」とひらがなで使った意味と事例は何か。	中島委員	「ちばし」の表記は、行政としての「千葉市」が目指す姿ではなく、市民をはじめとする多様な主体と共有し、ともに目指す姿を示したいとの考えから、やわらかさ、親しみやすさを持ってもらえるひらがな表記としています。 ひらがな表記を使用している事例としては、令和2年3月31日に発出された「ちばしチェンジ宣言！」が挙げられます。	—	無
7	事前意見	第4章	2	—	41	1行目 「みんながめざす未来の千葉市」の実現に向け～	p40にてみんながめざすべき未来の千葉市を定義しているので、「みんなが輝く 都市と自然が織りなす・ちばし」ではないか。	中島委員	ご意見のとおり修正します。	【P41 第4章 2 冒頭】 「みんなが輝く 都市と自然が織りなす・ちばし」の実現に向け、本市ならではの特性を活かしつつ、新たな時代を切り拓く未来志向のまちづくりを進めるため、分野横断的かつ重点的に取り組むべき戦略的視点を、以下のとおり定めます。	あり
8	当日意見	第4章	2	(2)	41	冒頭 ■成熟社会を豊かにする次代を担うひとづくりと文化・スポーツのまちづくりの推進	戦略的視点（2）の「成熟社会を豊かにする次代を担うひとづくりと文化・スポーツのまちづくりの推進」について、行間に含まれているものとは思いますが、これからの10年は芸術が重要となると考えるので、「芸術という言葉を追加して欲しい。	秋田委員	戦略的視点（2）のうち、特に創造的な活動には、芸術が重要な役割を果たすものと考えますので、本文中には「文化芸術」と記載しておりましたが、より明確となるよう、ご意見のとおり冒頭部分にも追記します。 また、分野別計画においても標記の統一を図ります。	【P41 第4章 2 (2)】 ■成熟社会を豊かにする次代を担うひとづくりと文化芸術・スポーツのまちづくりの推進	あり
9	第1回意見	第4章	2	(2)	41	4ポツ目 ・そこで、本市ならではの利便性の高さにより生み出される時間のゆとりと、身近にある海辺や内陸部の豊かな自然が生み出す空間のゆとりを最大限に活かしつつ、テクノロジーの活用による、多様な主体とともにつくる市民中心のスマートシティの推進などにより、誰もがより生活の利便性や快適性を感じることができるとともに、一人ひとりが持つ創造性を存分に発揮できる、活力にあふれるまちの実現に挑戦します。	他市と比べる際に、例えばさいたま市と比べると、海に面しているということが非常に有利であり、海があることで大きな産業が根付き、自然環境は海の恩恵を受けている。 また、横浜市にも海があるが、海浜がなく、ほとんど埋め立てられて工場地帯になっている。 海辺があるのが千葉の特徴と思っているため、ぜひ、そういった自然という海の強みをもう少し強調していただきたい。	轟委員	海辺・浜辺については、市としても重要な資源として認識しており、千葉市の都市アイデンティティを形成する地域資源の1つとして海辺を位置付けているところです。 第4章「目指すべき都市構造」に浜辺・海辺を位置付けておりますが、ご意見を踏まえ、更なる記述について検討します。	【P42 第4章 2 (2) 4ポツ】 ・そこで、本市ならではの利便性の高さにより生み出される時間のゆとりと、身近にある <u>浜辺・海辺</u> や内陸部の豊かな自然が生み出す空間のゆとりを最大限に活かし、 <u>市民が生活の豊かさを実感できるまちづくりを推進します。</u>	あり
10	事前意見	第4章	2	(2)	41	4ポツ目 ・そこで、本市ならではの利便性の高さにより生み出される時間のゆとりと、身近な海辺や内陸部の豊かな自然が生み出す空間のゆとりを最大限に活かしつつ、テクノロジーの活用による、多様な主体とともに・・・(略)活力のあるまちの実現に挑戦します	文章が長いので、内容によって文章を分けるのも一考ではないか。 また、「時間や空間のゆとり」は、市民のWell-beingや学習活動と関連する。「時間や空間のゆとり」によって「心身、社会的に健康な市民生活を創出する」などの視点が必要と思われる。 【意見の理由】 前回の議論で教育、福祉の視点が重要との意見があった。 市民生活の豊かさについて言及がもっとあっても良いと思われる。 成人教育理論に「マージン理論」というものがあり、マージン(余裕、ゆとり)が学習活動を規定するとされる。	岩崎委員	「時間と空間のゆとり」による市民生活の豊かさに関する記述を追加するとともに、わかりやすさを考慮し、表現を見直します。	・ <u>また</u> 、多様な主体とともにつくる市民中心のスマートシティの推進などにより、誰もが <u>全市域</u> で生活の利便性や快適性を感じることができる <u>まちの実現に挑戦します。</u> ・ <u>さらに</u> 、未来のまちづくりを担う人材を <u>育て</u> 、 <u>その活動を支えるとともに</u> 、文化芸術・スポーツの振興などにより、創造的で活力のある、質の高い暮らしを支える環境づくりに取り組みます。	あり
11	第1回意見	第4章	2	(3)	42	2ポツ目 ・併せて、家庭や経済状況など、個人の置かれた環境により、孤立したり、排除されたりすることのない社会を構築する必要があります。	効率性や生産性ばかりを追い求める政策では、教育や介護といった分野の真の価値が見えにくくなると思う。 国が豊かになったり、市が豊かになればなるほど、教員や介護士にお金をかけるべきだということに気づいていないところがある。担い手への報酬を負担と考えるのではなく、国や市が豊かになった証しということで、生産性や効率性ばかりを追いかけていくのではなく、教育改革を政策として掲げていくと、すごく豊かな市の計画になるのではないか。	下河原委員	教育や福祉の分野において、その制度を下支えする担い手の重要性は認識しておりますので、第4章2の戦略的視点において記述を検討してまいります。	【P42 第4章 2 (3) 2ポツ】 ・併せて、家庭や経済状況など、個人の置かれた環境により、孤立したり、排除されたりすることのない社会を、 <u>これらを支える担い手の育成・確保とともに築いていく</u> 必要があります。	あり

第2回千葉市新基本計画審議会における意見への対応の方向性

No.	分類	章	項	目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	委員	対応の方向性	原案の修正案（たたき台）	総論の修正有無
12	当日意見	第4章	2	(3)	42	全体	—	<p>戦略的視点（3）「世界とつながる 多様性を活かしたインクルーシブなまちづくり」について、インクルーシブとは、暮らしやすさや人々の繋がりにより、すべての人々が安全・安心で、訪れて楽しめる環境をつくることといった解釈をしているので、安心して過ごせる環境の整備など、スマートシティ的なものも加えていただきたい。</p> <p>例えば、日本橋では、大手不動産会社に関わってインクルーシブなまちづくりに取り組んでいる。そのような、先進事例を踏まえて具体策を加えると、動きが早くなるのではないか。</p>	高梨委員	テクノロジーの活用を含むスマートシティの推進については、まちづくりの全ての分野に関連するものであり、市民一人ひとりが、自分らしく快適に活躍する環境づくりの一助となるものと考えております。インクルーシブなまちづくりの実現に資する、具体的なスマートシティの取組みについては、実施計画等において検討してまいります。	—	無
13	追加意見	第4章	2	(3)	42	全体	—	<p>戦略的視点（3）「世界とつながる 多様性を活かしたインクルーシブなまちづくり」に、教育に関する記述を加えてはどうか。</p> <p>【意見の理由】 戦略的視点（3）全体を通じて、「人」がどう取り組んでいくのかが記述されていると考えるが、一人ひとりが持つ違いを認めたり、自分らしく活躍できる社会の構築や、その他、当該項目記載の内容には「教育」の役割がとて重要だと考えるため。</p>	成田委員	インクルーシブなまちの実現には、まず、多様性を理解し認めることが必要であり、その足掛かりとして、教育は重要であると考えております。ご意見を踏まえ、記述を検討します。	<p>【P42 第4章 2 (3) 4ポツ】 ・そのため、わたしたちがこれまでの歴史の中で培ってきた市民の「懐の深さ」と、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の競技会場都市としての経験を活かし、<u>様々な機会を通じて多様性を認め合い、尊重する意識を育むこと</u>で誰もがいきいきと活躍し、社会に活力をもたらすとともに、国内外からも選ばれる、多様性を活かしたインクルーシブなまちを目指します。</p>	あり
14	事前意見	第4章	2	(3)	42	—	<p>■市民の懐の深さとオリンピック・パラリンピックのレガシーを活かした共生社会づくりの推進</p>	<p>各国の姉妹都市との交流について、今後、推進するところはないのか。</p> <p>【意見の理由】 東京2020オリンピック、パラリンピックの無観客開催や各国選手との交流中止により、レガシーと言えるほどのものが千葉市に残せているのか疑問。「世界とつながる」との目標達成のためには、他の施策も必要ではないか。</p>	中島委員	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当初想定していた取組みの全ては実施できなかったものの、ボランティア文化の醸成、オリ・パラ教育の推進、パラスポーツの普及・啓発等の取組みなどは、大会レガシーとして本市の財産になったものと考えております。姉妹都市との交流も含め、多文化共生社会の実現に向けた取組みについては、今後、実施計画等において検討してまいります。	—	無
15	事前意見	第4章	2	(3)	42	4ポツ目	<p>・そのため、わたしたちがこれまでの歴史の中で培ってきた市民の「懐の深さ」と、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の競技会場都市としての経験を活かし、誰もがいきいきと活躍し、社会に活力をもたらすとともに、国内外からも選ばれる、多様性を活かしたインクルーシブなまちを目指します。</p>	<p>上記同様、市民が経験したものは何か。また、その経験により、なぜ、誰もがいきいきと活躍できるようになるのか。</p>	中島委員	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当初想定していた取組みの全ては実施できなかったものの、ボランティア文化の醸成、オリ・パラ教育の推進、パラスポーツの普及・啓発等の取組みは、大会レガシーとして、誰もがいきいきと活躍できるインクルーシブな社会の実現に資すると考えております。	—	無
16	第1回意見	第4章	2	(4)	43	4ポツ目	<p>・そこで、本市とのつながりが深い本市以東、以南を中心とした周辺都市を含む圏域全体としての活性化を図るため、雇用の創出や商業、観光機能の強化とともに、大消費地と近接する立地特性を活かした農業振興など、本市の役割を果たすまちづくりに挑戦します。</p>	<p>人口について、定住人口が主に書かれているが、現在はコロナ禍でインバウンドが大変落ち込んでいるが、今後、人口減少の中では、インバウンドといわれる、いわゆる交流人口をしっかり受け入れていくという戦略が必要ではないか。そのため、是非、交流人口、特にインバウンドのデータを取り入れて示していただきたいと思っている。</p>	轟委員	ご意見のとおり、インバウンドに関する記述を追記します。また、第4章（2）の戦略的視点において、「交流人口」をキーワードとして追記することを、併せて検討します。	<p>【P43 第4章 2 (4) 4ポツ】 ・そこで、本市とのつながりが深い本市以東、以南を中心とした周辺都市を含む圏域全体としての活性化を図るため、<u>未来技術の実装に向けた取組みの推進</u>、雇用の創出や商業、観光機能の強化などによる<u>交流人口の拡大</u>とともに、大消費地と近接する立地特性を活かした農業振興など、<u>東京圏において本市が担うべき機能的役割を踏まえた、戦略性を持った</u>まちづくりに挑戦します。</p>	あり
17	当日意見	第4章	2	(4)	43	2ポツ目 2行目	<p>・また、未来技術の実証フィールドとして、自動運転モビリティの導入による回遊性の向上や賑わいの創出に取組むなど、<u>時代の先端に挑戦しています。</u></p>		松永委員	ご意見のとおり、目指すべき都市構造と戦略的視点の整合性を図るとともに、未来技術については、引き続き実証実験等を実施し、今後は社会実装の段階に進めていきたいと考えております。具体的にお示しいただいた文章については、現状を説明した部分になりますので、その後の部分への記述を検討します。		あり

第2回千葉市新基本計画審議会における意見への対応の方向性

No.	分類	章	項	目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	委員	対応の方向性	原案の修正案（たたき台）	総論の修正有無
18	当日意見	第4章	2	(4)	43	3ポツ目 2行目 4行目	<p>・人口構造が変化の中で、極力、その影響を緩和しつつ、本市が活力を維持していくためには、市内各エリアの特性を活かしながら<u>産業の活性化を不断に図る</u>とともに、高い交通利便性を活かし、本市と関係の深い県内エリアの情報や資源を共有し合うなど、それぞれが持つ強みを活かし、地域の枠を超えて<u>ゆるやかに連携・協力</u>していくことが重要となります。</p>	<p>上記No. 17の意見に加え、同様に本編43ページの「産業の活性化を不断に図る」という表現では具体性がない。また、「ゆるやかに」という表現は積極的にやらないと誤解される可能性があるため、削除し、以下のように修正してはどうか。</p> <p>【2行目】 産業の活性化を不断に図る⇒既存産業の発展や新産業の集積を図る 【4行目】 ゆるやかにを削除</p>	松永委員	<p>ご意見のとおり、目指すべき都市構造と戦略的視点の整合性を図るとともに、具体的な産業活性化の方策を示すことで、圏域において千葉市が果たすべき役割をより明確にするため、<u>ご意見を踏まえ修正します</u>。</p>	<p>【P43 第4章 2 (4) 3ポツ】 ・人口構造が変化の中で、極力、その影響を緩和しつつ、本市が活力を維持していくためには、市内各エリアの特性を活かしながら、<u>既存産業の発展や新事業の創出</u>を図るとともに、高い交通利便性を活かし、本市と関係の深い県内エリアの情報や資源を共有し合うなど、それぞれが持つ強みを活かし、地域の枠を超えて連携・協力していくことが重要となります。</p>	あり
19	事前意見	第4章	2	(4)	43	5ポツ目	<p>・また、房総の大自然や海の幸・山の幸など、多彩な魅力を活かすとともに、テレワークやワーケーションなど多様な働き方へのニーズを踏まえた、東京圏にあって独立した性格をもつちば共創都市圏ならではの新たなライフスタイルを提案するなど、地域特性を活かした広域連携を推進し、「ポストコロナ」における圏域の価値向上を目指します。</p>	<p>以下のとおり修正する。 「・また、地域特性を活かした広域連携を推進するため、房総の大自然や山の幸・海の幸など多彩な魅力を活かすとともに、テレワークやワーケーションなど多様な働き方へのニーズを踏まえた、東京圏にあって独立した性格をもつちば共創都市圏ならではの新たなライフスタイルを提案するなど、「ポストコロナ」における圏域の価値向上を目指します。」</p> <p>【意見の理由】 文章の冒頭で「地域特性を活かした広域連携を推進するため」と述べたほうが、広域連携に関する内容であることが伝わりやすいと考えたため。</p>	渡邊委員	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、わかりやすい表現に修正します。</p>	<p>【P43 4章 2 (4) 5ポツ】 ・また、<u>圏域の価値向上を図るため、本市を「入口」に広がる房総の大自然や、そこで獲れる海の幸・山の幸などの多彩な魅力の活用や、「ポストコロナ」にも対応したテレワークやワーケーションなど多様な働き方の提供により</u>、東京圏にあって自立した性格をもつちば共創都市圏ならではの、新たなライフスタイルを提案するなど、地域特性を活かした広域連携を推進します。</p>	あり
20	当日意見	第4章	2	(4)	43	5ポツ目	<p>・また、房総の大自然や海の幸・山の幸など、多彩な魅力を活かすとともに、テレワークやワーケーションなど多様な働き方へのニーズを踏まえた、東京圏にあって独立した性格をもつちば共創都市圏ならではの新たなライフスタイルを提案するなど、地域特性を活かした広域連携を推進し、「ポストコロナ」における圏域の価値向上を目指します。</p>	<p>戦略的視点(4)「都市機能の集積を活かした 地域経済・社会の活性化」の説明について、当該部分以外は、「ちば共創都市圏」における千葉市の役割が書かれているが、当該部のみ、「房総の大自然や山の幸・海の幸」など、圏域の千葉市ではない部分を意識した表現となっており、どこのことを言っているのか曖昧に感じる。</p>	石河委員	<p>当該部分については、ポストコロナにおける多様な働き方やライフスタイルといった新たな価値観に対し、千葉市だけでなく、圏域内に存在する多彩な魅力を併せて提示することで、これまでの「ちば共創都市圏」における取組みをさらに広げた形での圏域の価値向上を目指すという趣旨で掲げたものです。ご意見のとおり、市域と圏域の魅力が混在しており、分かりにくいことから、表現の修正を検討します。</p>	<p>【P43 4章 2 (4) 5ポツ】 ・また、<u>圏域の価値向上を図るため、本市を「入口」に広がる房総の大自然や、そこで獲れる海の幸・山の幸などの多彩な魅力の活用や、「ポストコロナ」にも対応したテレワークやワーケーションなど多様な働き方の提供により</u>、東京圏にあって自立した性格をもつちば共創都市圏ならではの、新たなライフスタイルを提案するなど、地域特性を活かした広域連携を推進します。</p>	あり
21	当日意見	第4章	3	—	46	5ポツ目	<p>・豊かな自然が広がる郊外部では、それぞれの特性を活かしながら多様なライフスタイルを選択することができ、郊外部を含む全市域で安心して暮らし続けられる良好な環境が整っています。</p>	<p>「千葉市型コンパクト・プラス・ネットワークが」実現されたまちの姿において、戦略的視点(1)の「災害に強い、安全・安心なまちづくり」に触れられていない。 例えば、46ページの5ポツ目2行目「地域の特性に応じた多様な働き方や住まい方を支える環境が確立しています」の前に、「災害にも強く」と追加してはどうか。</p>	松永委員	<p>目指すべき将来の都市構造の実現は、災害に強く、安全・安心なまちづくりの実現にも資するものと考えますので、ご意見を踏まえ記述を検討します。</p>	<p>【P46 第4章 3 6ポツ】 ・豊かな自然が広がる郊外部では、それぞれの特性を活かしながら多様なライフスタイルを選択することができ、郊外部を含む全市域で、<u>災害にも強く、安全で安心に</u>暮らし続けられる良好な環境が整っています。</p>	あり
22	事前意見	第4章	3	(2)	45	都市構造の将来像	千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク	ちば共創都市圏や、総務省の連携中枢都市圏構想との関連も想起されるが、周辺自治体も含めた計画は策定されているのか。	中島委員	周辺自治体と共同で作成した計画はありませんが、福祉、経済などの分野で周辺都市との連携に取り組んでいます。	—	無
23	事前意見	第4章	3	(2)	46	都市構造の将来像	『下総台地の緑風、東京湾の浜辺、人々が行き交う“ちば”に住まう』	標語が多くないか。	中島委員	千葉市型コンパクト・プラス・ネットワークの実現した姿をイメージする言葉を多様な主体が共有することで、市民が積極的にまちづくりに参加できるようにするため、象徴的な表現を用いています。	—	無

第2回千葉市新基本計画審議会における意見への対応の方向性

No.	分類	章	項目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	委員	対応の方向性	原案の修正案（たたき台）	総論の修正有無	
24	当日意見	第4章	3	(3)	47	①みどりイメージ図	—	秋田委員	本市の市街化調整区域において山林と田園のエリアは混在しており、明確にエリアを分けるのは困難であることから、イメージ図は現行のままとし、凡例における考え方を、山林と田園に分けるなど、記述の仕方を検討します。	検討中	あり	
25	当日意見	第4章	3	(3)	49	③くらし1ポツ目	・都心、生活拠点のそれぞれの拠点が、公共交通はもとより次世代の交通サービスや通信技術などでも効果的につながり、どこからでも必要な時に、必要なサービスにアクセスできるまちづくりを進めます。 都市構造の「くらし」の部分で使われている「通信技術」について、現在、デジタルトランスフォーメーションやデジタルツインなど、現実のネットワーク以上のものになってきている。特性に位置付けた「挑戦都市」と絡め、そういったものにも挑戦する都市として、この中に組み込むことを検討して欲しい。	轟会長	ご意見のとおり、通信技術は進化し続け、現実だけでなく仮想も含めたネットワークの重要性は高まっていくものと考えますので、記述を検討します。	【P49 第4章 3 (3) ③ 1ポツ】 ・都心、生活拠点のそれぞれの拠点が、公共交通はもとより次世代の交通サービスや、 <u>高度化する情報通信技術により構築されるネットワーク</u> などでも効果的につながり、どこからでも必要な時に、必要なサービスにアクセスできるまちづくりを進めます。	あり	
26	当日意見	第4章	4	—	50～	全体	—	高山委員	千葉市には、他にも良いところがたくさんあるので、区の魅力についての記載を充実させて欲しい。 中央区：千葉市の始まり、千葉氏 稲毛区：千葉県スポーツセンター 若葉区：動物公園のチーターの赤ちゃん 美浜区：市民の手による「磯の松原」の造成、幕張海浜公園でのレッドブルエアレースなど	主な区の特徴については、これまでの歴史やまちづくりの中で培ったエリアの特徴の中から、主なものを位置づけております。 ご意見を踏まえ、基本計画に位置付けてアピールすべきものを改めて整理し、必要なものを追加で位置づけることを検討します。 なお、磯の松原の造成については、市民の手による松原の復興活動という背景を、第2章の「千葉市のあゆみ」へ追記することを検討します。	【P12 第2章 2 (11) 2パラ】 そこで、昭和51年(1976年)、かつての遠浅の海を再現しようと、わが国初の人工海浜である「いなげの浜」が造成され、 <u>昭和56年(1981年)には、市制60周年を記念して市民参加による「磯の松原」の植樹が行われました。</u> <u>稲毛から幕張にかけての浜は、</u> 日本一の長さを誇る人工海浜として、今も市民から愛され続けています。 【P59 第4章 4 (4) ①主な特徴の最後に追加】 <u>・昭和60年(1985年)に開園した動物公園では、2本足で立つレッサーパンダの「風太」が全国的な人気を集めるなど、市内外から多くの方が訪れています。その後も、ライオンやチーターをはじめとした新たな動物を導入するなど、動物と触れ合える市民の憩いの場として親しまれています。</u> 【P59 第4章 4 (4) ③実現に向けた取組みの方向性 3ポツ】 ・富田さにとわ耕園、千葉ウシノヒロバ、 <u>動物公園</u> など内陸部の地域資源を活かし、東京からも気軽に自然や農と触れ合える稀有なエリアとして、活発な都市・農村交流を行います。	あり
27	事前意見	第4章	4	—	50	全体	—	渡邊委員	目指すべき区の姿について、構成を①目指すべき区の姿②主な特徴 とすることでより理解しやすくなると感じる。 【意見の理由】 目指すべき区の姿が先頭に来ることで、初めに各区の特徴の概要を把握できるため、具体的なイメージが湧きやすいつと感じた。	ご意見を踏まえ、記載の順序を修正します。	【P50～ 第4章 4】 目指すべき区の姿の記載順序を、「目指すべき区の姿」、「主な特徴」、「実現に向けた取組みの方向性」に修正します。	あり
28	事前意見	第4章	4	—	50	全体	—	菊地委員	第3章の将来の人口推計などでは区別の推計が掲載されていないが、50ページ以降では現行の6区体制を前提にしているとの理解でよいか。 一層の都市内分権や行政区の再編（他の政令市では実際に議論となっており、行政区の増減や区割り線引きの引き直しなど多様な選択肢が想定される）などの可能性や検討について触れる必要がないのか、確認したい。	ご意見のとおり、現行の6区体制を前提としております。なお、各区別の人口推計については第3章において示しております。 今後の社会変化により、将来的に行政区の再編について検討する可能性はありますが、次期基本計画においては、行政区の見直しは検討しておりません。	—	無

第2回千葉市新基本計画審議会における意見への対応の方向性

No.	分類	章	項目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	委員	対応の方向性	原案の修正案（たたき台）	総論の修正有無	
29	事前意見	第4章	4	—	50	2行目	本市の6つの区が有する特徴を改めて整理するとともに、これらを最大限に活かし、伸ばすことにより、わたしたちが目指すべき将来像を明らかにし、 <u>魅力と活力ある区づくり</u> を推進します。（略）	他の政令市の状況を生じ上げないが、区の魅力を向上していくには、区役所の機能やリソースを拡充する必要があると考えるため、そのような記述が必要ではないか。	中島委員	区役所については、これまでも様々な機能強化を講じてきたところですが、具体的な取組みについては、今後、実施計画等の中で検討してまいります。	—	無
30	事前意見	第4章	4	—	51	全体	—	内陸部のバスや車での移動がメインになるエリアを、単に「川辺に親しむエリア」、「緑と農に親しむエリア」とするのではなく、そこに居住する高齢者向けに、交通、あるいはそれをカバーするサービスの提供（移動スーパー、訪問医療、定期的な見守り等）を検討し、盛り込んだ方がよいのではないかと。 【意見の理由】 ①この基本計画が終了する頃、恐らく私達審議委員の大半が「高齢者」になっている。今具体的に思いつかなくても、これをやっておくと、いずれ我々自身に役立ち、且つ、その頃大人になっている今の子ども世代に余計な負担をかけずにすむのではないかと。 ②今回の計画期間中に SDGs の達成期限である2030年を迎えるため、「誰一人取り残さない」という観点から、たとえ居住者が少数であったとしても、押さえておきたい。 また、先を見越して計画に盛り込むことで、将来的にこのエリアが過疎化し、自然を保全する人がいなくなるということも防げる。	角田委員	ご意見のとおり、高齢者が今後増加していく中、誰もが安全・安心に移動できる環境や、住み慣れた地域で生活が続けられる環境は、重要と考えています。具体的な取組みについては、総論での課題認識を踏まえ、分野別計画に記載しています(分野別計画7-2-1)。	—	無
31	事前意見	第4章	4	(1)	53	①主な特徴 5ポツ目	また、千葉駅北側に位置し、本市を代表する公園のひとつである千葉公園においては～さらなる魅力向上や周辺地域の活性化を図るための再整備が進められています。	以下の文章を文末に追加する。 「蓮池には、市の花である「オオガハス」が育成されています。」 【意見の理由】 市の花でもあり、世界最古のハスである「オオガハス」について触れてはどうか。	仙波委員	ご意見を踏まえ、「オオガハス」に関する記述を追加します。	【P53 第4章 4 (1) ① 5ポツ】 ・～また、千葉駅北側に位置し、本市を代表する公園のひとつである千葉公園においては、国際規格に準拠した自転車競技の走路を有する多目的スポーツ施設「千葉JPFドーム」をはじめ、さらなる魅力向上や周辺地域の活性化を図るための再整備が進められているほか、 <u>市の花である「オオガハス」が栽培・保存されており、毎年多くの花を咲かせるなど、市民に憩いの場を提供しています。</u>	あり
32	事前意見	第4章	4	(5)	60	①主な特徴 6ポツ目	・面積あたりの住宅地価格（令和元年〔2019年〕時点：6.6万円/㎡）が6区中最も安価な立地環境を活かし～ <u>住空間のゆとり</u> に恵まれた環境にあると言えます。	住空間のゆとりを維持していくためには、建蔽率、敷地面積の下限を制限することが必要と考える。	中島委員	敷地面積の下限設定については、地区計画や建築協定により最低敷地面積を定めることができ、千葉市においても活用されており、地域の実情に応じて引き続き運用してまいります。	—	無
33	事前意見	第4章	4	(5)	60	③実現に向けた取組みの方向性 2ポツ目	・自然に近くゆとりある空間のポテンシャルを活かし、農業や産業の振興を図るとともに、感染症等のリスクにも対応した、自然も仕事もそばにある、心豊かに暮らせる <u>新たな職住近接のライフスタイル</u> が実現できる環境を創ります。	大いに期待するが、感染症リスクに対応したリモートワーク拠点の整備などの観点も必要ではないか。	中島委員	新たな職住近接のライフスタイルの実現については、リモートワークの普及などの働き方の変化も踏まえ、実施計画等において検討してまいります。	—	無

第2回千葉市新基本計画審議会における意見への対応の方向性

No.	分類	章	項	目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	委員	対応の方向性	原案の修正案（たたき台）	総論の修正有無
34	事前意見	第4章	5	—	64	4ポツ目	<p>・また、多様な主体が連携し、社会課題の解決に挑戦できる環境を整備するとともに、調整役としての役割を行政が担うほか、市民の目線に立ち、地域活動等に取り組む職員を育成します。</p>	<p>多様な主体との連携を説明する部分で、産学官連携について言及してはどうか。</p> <p>【意見の理由】 千葉市は市内の各大学や企業と包括的な連携協定を結んでいることから、多様な主体についてより具体的な内容を明記してもよいのではないかと感じた。</p>	渡邊委員	ご意見を踏まえ、修正します。		あり
35	事前意見	第4章	2	(3)	42	—	<p>世界とつながる、多様性を活かしたインクルーシブなまちづくり</p>	<p>市民の主体性や市と市民とのパートナーシップについての言及が見られない。 「市民との対話を通じ」などの表現がどこかにあると良いのではないかと。</p> <p>【意見の理由】 市と市民との関係性についての言及が少ない。</p>	岩崎委員	「市民との対話」やそれに類する表現については、多様な主体の連携によるまちづくりについて記載している「5まちづくりを進める力」に記載していますが、より具体的な表現を検討します。		あり
36	事前意見	第4章	5	—	64	4ポツ目	—	<p>基本方針について、多様な主体との連携が重要であることに異論はないが、多様な主体との連携の“主体性”をどのように高めていくかが難しいと感じる。 「多様な主体との連携」という場合に、他人事とせず、「自分事」としてイメージさせる文言の工夫が必要ではないかと。 例えば、千葉市民の矜持として、「みんなの「私」で共有し、取り組む計画」などというイメージ。</p>	菊地委員	多様な主体に「自分事」として捉えていただくことは重要と考えておりますので、表記を含め検討してまいります。		あり
37	当日意見	第4章	5	—	64	全体	—	<p>「まちづくりを進める力について」、聞こえは良いが、ともすると誰が当事者となって、責任を持って進めていくのかというコンセプトが曖昧になってしまう可能性もある。市民一人ひとりが当事者意識を持ってまちづくりに主体的に関わっていくことで、たとえ小さなものであっても、自分の行動でまちを変化させることができると感じる環境が大事だと考える。一人ひとりの市民がもっと前に出てくるような、一人ひとりがまちを作っていくという意識付けが重要である。</p>	林委員	ご意見のとおり、まちづくりを進める力を実効性のあるものとするには、市民に、自らがまちづくりの主体であるという当事者意識を醸成することが重要だと考えますので、記述を検討します。		あり
38	事前意見	第4章	5	—	64	3ポツ目	<p>・そのため、既存の公共私の役割分担を不断に見直しながら、<u>多様な地域の担い手の相互連携を強化・促進し、みんなでまちづくりを進めていきます。</u></p>	<p>多様な担い手を増やすため、不断の取り組みが必要と考える。 千葉市には市民活動支援センターが中央区にしかなく、県内の他市と比べても先進的な取り組みとは言えないと思われる。 区ごとの特色を発揮する面からも、各区への拡充を期待する。</p>	中島委員	多様な担い手の育成にあたっては、活動の機会や活動の場の提供は重要と認識しております。今後、将来的なニーズも考慮し、既存施設の有効活用を検討してまいります。また、オンラインで講座・イベントを開催することで、現施設から離れた場所で活動している方も利用しやすい取組みを検討してまいります。	—	無
39	事前意見	第4章	5	—	64	3ポツ目	<p>・そのため、既存の公共私の役割分担を不断に見直しながら、多様な地域の担い手の<u>相互連携を強化・促進し、みんなでまちづくりを進めていきます。</u></p>	<p>相互連携のためには、市内をはじめ、県内、国内、海外の知見を広く集め、適用・調整する横断的組織が必要と考える。</p>	中島委員	具体的な取組みについては、実施計画等において検討してまいります。	—	無
40	事前意見	第4章	5	—	64	4ポツ目	<p>・また、多様な主体が連携し、社会課題の解決に挑戦できる環境を整備するとともに、調整役としての役割を行政が担うほか、市民の目線に立ち、<u>地域活動等に取り組む職員を育成</u>します。</p>	<p>今までも職員の育成に取り組んでいると思うが、市民の立場からすると異動が多いように感じる。</p>	中島委員	本市では、「人材育成・活用基本方針」に基づき、職員の育成に努めています。異動については、一人ひとりの能力や適性を見出すために、採用後、早期に異なる分野の職場を2か所以上経験するというローテーションを原則とするとともに、その過程で見出された能力や適性を、今後の配置の基礎としているところです。	—	無

第2回千葉市新基本計画審議会における意見への対応の方向性

No.	分類	章	項	目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	委員	対応の方向性	原案の修正案（たたき台）	総論の修正有無
41	事前意見	第4章	5	—	64	6ポツ目	・加えて、圏域の持つ特徴や多様性を活かしながら、独自のライフスタイルを提案し、圏域全体の活力向上を推進します。	二拠点生活が話題となっているため、圏域での二拠点生活の推進を掲げてはどうか。	中島委員	コロナ禍において、二拠点生活への関心が高まっていることは認識しております。今後、本市の立地等の特性や利用者ニーズ等を考慮しながら、具体的な取組みを検討してまいります。	—	無
42	事前意見	第5章	1	—	65	5パラ目	さらに、施設の管理運営の効率化や計画的保全による維持管理コストの縮減、利用状況を考慮した施設総量の縮減、更新時における施設規模の適正化や集約化・複合化の検討など、 <u>民間活用やまちづくりの視点を含み経営的な視点に立った公共施設の適正管理を推進</u> します。	PPPの活用について、予算や運営の制限により、独自の運営ができず、単なる行政の下請けとなっているとの話を聞く。PPPのパートナーシップという言葉は今一度考えていただき、特色ある公共施設を望む。	中島委員	本市では、PFIや指定管理者制度など、民間の資金やノウハウを活かした官民連携による公共施設の整備、管理運営を行っています。	—	無
43	第1回意見	第5章	2	—	—	全体	—	重要な社会変化に関して、不確実性が非常に高まっていることは非常に大きいと思っている。千葉市だけでなく、国の議論でもここが一番大きな問題で、いままでの右肩上がり閉塞感があり、これからはアジャイルで行かないといけないとの報告書も出ている。これから先、計画して着実にこなしていくことは分野によって必要だと思うが、それ以外ではこれから変わっていくことを前提にやっていくことも大切だと思う。	森川委員	ご意見のとおり、不確実性が高まる中においては、中長期的な将来を見据えながらも、機動的に直近の社会変化に対応していく必要があると考えますので、記述を検討します。	【P65 第5章 2 全体】 基本計画のまちづくりを推進するとともに、取組みの効果を高めるため、進捗状況の管理及び評価を実施します。 <u>実施計画の終了時に行う政策評価においては、取組みの進捗状況や市民の実感などを踏まえ、基本計画のまちづくりの評価と課題の抽出を行うとともに、取組みの改善につなげます。</u> <u>これに加え、実施計画においては、毎年度行う進捗管理による事業の達成状況を把握することで改善を図るとともに、計画の推進にあたっての課題や社会変化を的確に捉えながら、機動的な意思決定を行うことで、迅速に必要な施策に取り組んでいきます。</u>	あり
44	事前意見	第5章	2	—	65	2パラ目	本計画では、同計画に基づく <u>実施計画の終了時に政策評価を行います。</u>	政策評価は終了時ではなく、次の実施計画策定時に中間の政策評価に基づき策定できるようにするべきではないか。	中島委員	計画の進行管理においては、中長期的な視点から行う政策評価と、短期的な視点から行う実施計画事業の進捗管理を併せて行う予定です。次の実施計画の策定においては、前年度までの計画事業の進捗状況を踏まえたうえで事業立案を行っています。	—	無
45	事前意見	第5章	2	—	65	3パラ目	これに加え、 <u>実施計画の進捗管理を毎年度行い、取組みに係る課題の抽出及び改善を不断に図ります。</u>	同様に、年度ごとに行っている翌年度の対応が後手となります。中間管理が必要と考えます。	中島委員	実施計画については、各年度の予算（3月）・決算（10月）時点において課題の把握や進行管理を行い、改善を図りながら事業を推進しています。各所管課においても、事業効果やニーズ等を考慮し、随時、事業の見直しを行っています。	—	無